ご家族への説明資料　｜　集中治療科

プロポフォールの使用について

お子さまの鎮静（眠って落ち着いた状態を保つこと）に
使うお薬について、ご説明します。

静岡県立こども病院

プロポフォールとは

広く使われている「眠るためのお薬」です

手術室の全身麻酔では、こどもを含めて幅広く使われているお薬です。
今回、お子さまの治療でこのお薬を使う必要が出てくる可能性があります。

効き始めが早い

体にたまりにくい

止めると早く目が覚める

注意が必要な点

集中治療室での使用は「禁忌」とされています

お薬の公式な説明書（添付文書）では、集中治療室で人工呼吸中のこどもを眠らせる目的で使うことは「禁忌（使ってはいけない）」と書かれています。

その理由：プロポフォール注入症候群（PRIS）

長い時間・多い量を使うと、まれに次のような重い副作用が起こることが知られています。

不整脈 ／ 心不全 ／ 低血圧 ／ 横紋筋融解症（筋肉が壊れる） ／ 高カリウム血症 ／ 急性腎不全 ／ 血液の酸性化

知っておいていただきたいこと

大人でも起こることがあり、亡くなった例も報告されています。ただし、使用が禁忌とされているのはこどもに限られています。

それでも使う理由

危険性よりも利点が上回ると判断した場合に使います

ほかのお薬にない利点

- ほかのどの鎮静薬よりも効き始めが早い
- 続けて使っても体にたまりにくい
- お薬を止めると速やかに目が覚める

治療の現場で起こること

- 眠る期間が長くなると、いつものお薬が効きにくくなる（耐性）ことがある
- お薬を減らしていく途中で、眠った状態を保てなくなることがある

使用を検討する場面

次の4つの場面で使用を検討します

1　検査・処置のとき

長時間の画像検査や気道の精密検査など、確実で調整しやすい鎮静が必要なとき

2　ほかのお薬が効きにくいとき

いろいろな鎮静薬を併用しても、耐性などにより眠った状態を保てないとき

3　お薬を減らしている途中

鎮静薬を減らす途中で、気管挿管（呼吸の管）を保つのが難しいとき

4　呼吸の管を抜く前

ほかの鎮静薬が残ると空気の通り道がふさがりやすい場合に、抜く前にそのお薬を止める時間を十分にとりたいとき

お子さまに当てはまる理由は、説明書の□に印をつけてお知らせします。

安全のための取り組み

量と時間を、基準よりさらに控えめにします

文献や国の研究班が示す目安

48時間以下

1時間あたり 体重1kgにつき 4mg以下

当院で決めている上限

連続12時間以下

1時間あたり 体重1kgにつき 4mg以下

使うかどうか：集中治療科の医師2名以上で話し合って決めました。

使っている間：モニターで見守り続け、副作用をいち早く見つけるよう努めます。

同意について

ご納得いただけたら、同意書にご署名ください

同意書

使う理由と妥当性にご了解いただけた場合に、ご家族（代諾者）がご署名ください。

同意の撤回

一度同意された後でも、「同意撤回書」を出していただくことで撤回できます。

わからないことや心配なことは、どんなことでも担当医にお尋ねください。